



「自分が作ったのはどれだろう？」と先生と一緒に探す児童たち

花巻清風支援学校遠野分教室作品展 2月7日

### 個性輝く自慢の作品でにぎわう

花巻清風支援学校遠野分教室(小澤千穂校長、13人)の作品展がとびあ1階セントラルコートで開かれ、工作や絵画などの作品約200点が会場を彩りました。作品展は2月3日～26日まで実施。7日は児童生徒も見学しながらPR活動し、多くの人でにぎわいを見せました。堀切司さん(小学部6年)は「粘土でかぶとを作った。絵の具で塗ったところが気に入ってポイントです」と自慢の作品を紹介していました。



家族に囲まれ100歳のお祝いを受けた菊池さん(前列中央)

自宅で長寿をお祝い(2月20日生まれ) 2月20日

### 宮守町の菊池エスさん100歳

100歳を迎えた菊池さんのお祝いが自宅で行われ、家族らが長寿を祝いました。孫夫婦がどじょうすくい踊りを披露すると、菊池さんは「私のためにありがとう」と感謝を伝えました。大正13年に宮守村(宮守町宮守)で生まれ、29歳で一男さん(故人)と結婚。牛の飼育や炭焼きなどで家計を支え、4人の子どもを育て上げました。現在は演歌を聞くことを楽しみに、自宅で穏やかに過ごしています。



遠野早池峰菜の味にグーサインを出す児童

「遠野早池峰菜」を使った学校給食が提供 2月20日

### 伝統野菜味わい魅力を学ぶ

地元食材の魅力を広めようと、遠野伝統野菜研究会(高橋義明会長)が市内学校給食に遠野早池峰菜を提供しました。遠野早池峰菜は風味が良く、DベータカロテンDビタミンC Dカルシウム—などの栄養素が豊富。現在、市内で2軒の農家だけが栽培する希少な野菜です。給食を味わった倉岡誓斎さん(鱒沢小4年)は「シャキシャキで甘みがあっておいしかった」と声を弾ませました。



それぞれの願いを込めて練り歩く参加者

伝統行事「小友町裸参り」 2月24日

### 願いを込め、寒中練り歩く

小友町裸参り(小友町裸参り保存会主催)が巖龍神社周辺で開催され、市内外から厄年の男性や小学生など14人が参加しました。参加者は、願いが書かれた灯籠を片手に神社と大般若供養塔の間を3往復。家内安全や五穀豊穰などを祈願し、厳かに練り歩きました。菊池真也さん(宮守町鱒沢)は「厄を払おうと10年ぶりに参加した。今年1年の健康を願いたい」と思いを語りました。

1月27日 ウエディングパレス道でお祝い(2月12日生まれ)

### 青笹町の佐々木セツさん100歳

佐々木さんの100歳を祝う会がウエディングパレス道(青笹町)で開かれ、家族らが長寿を祝福しました。大正13年に一関市で生まれた佐々木さんは、青笹町の次男さん(故人)と結婚。建設会社で働きながら、息子2人を育て上げました。現在は、庭の花植えを楽しみながら自宅で元気に生活。佐々木さんは「家族の支えのおかげで生活できている。これからも元気に長生きしたい」と笑顔で話しました。



家族から祝福を受ける佐々木さん(右から2人目)

1月29日 第3回「これから」を考えるための小さな勉強会

### 地域や社会の学びを子どもたちへ

起業家などを講師に地域づくりの手法を学ぶ勉強会が市役所ととびあ庁舎で開かれ、市内外から14人が参加しました。この春新設されるF C今治高校(愛媛県)の初代校長に就任する辻正太さん(榑まちなかキャンパス代表取締役)が「若者と地域が共に育つ仕組みとは」と題し講演。「地域づくりを教材に実践的に学ぶ場を提供できれば、地域に参画する若者が増えて地域も盛り上がっていく」と強調しました。



人材育成のあり方を力説する辻さん

2月3・4日 昔話語り部育成講座発表会

### 期待の後継者たちが成果を発表

発表会がとびあ物語の館で開かれ、語り部継承に取り組む受講生約30人が成果を発表しました。減少する語り部に歯止めをかけようと認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークが企画。市内外から受講生を募り、約半年間現役の語り部からノウハウを学びました。「笛吹峠」を語った中嶋真理さん(奥州市)は「情景が見えるような語りを心掛けた。今後は、本格的に語り部を目指したい」と意欲を見せました。



発表を終え、今後の活動に意欲を新たにした受講生ら

2月5日 ニホンジカ捕獲応援隊育成講習会

### シカの捕獲活動、農家も一役

応援隊育成講習会が市役所本庁舎で開かれ、農家ら約80人が参加。狩猟免許を持つ市鳥獣被害対策実施隊からわなの使い方を学び、被害対策の意識を高めました。応援隊は、免許を持たない農家が自身の農地でわなの見回りなどを担い、捕獲活動をサポートする本市独自の取り組み。実施隊の佐々木清美隊長(宮守町鱒沢)は「捕獲数は増加傾向。安全第一で活動にあたってほしい」と呼びかけました。



市実施隊からわなの使い方を学ぶ農家の皆さん